
第二回福井県地産地消率状況調査事業 報告書

平成24年3月

福井県

目 次

[第1部 調査概要と集計結果の主な特徴]

I	調査の目的	1
II	調査の概要	1
III	地産地消率と集計結果の特徴(第1回調査との比較)	2
1	消費・地産地消率	2
1)	算定結果	2
2)	主な要因や背景	3
2	生産・地産地消率	6
1)	算定結果	6
2)	県内生産量と県内仕向量	6
3	流通・地産地消率	7
4	消費世帯調査(主な特徴)	8
1)	世帯情報の比較	8
2)	家庭食・総菜・外食における県内産品の量を比較	10
3)	食材入手先別産地割合を比較	12
5	農業(家庭菜園含む)アンケート(主な特徴)	13
6	食生活・地産地消に関するアンケート(主な特徴)	15
7	生産量調査(主な特徴)	17
8	流通・加工調査、飲食店・病院福祉施設調査(主な特徴)	18

[第2部 各調査内容と集計結果]

I	消費世帯調査	19
1	調査内容と回答者の属性	19
2	消費世帯調査の結果	21
3	農業(家庭菜園含む)アンケート	34
4	食生活・地産地消に関するアンケート	45
II	生産量調査	54
III	流通・加工調査	56
1	JA経済連	56
2	青果市場(青果市場)	58
3	水産市場(産地市場)	61
4	水産市場(消費市場)	62
5	水産市場(仲買人)	65
6	コンビニエンスストア	68
7	小売業(常設直売所、商店・専門店、量販店・百貨店・総合スーパー)	72
8	加工業(食料品・清涼飲料製造業、酒類製造業)	82
IV	飲食店・病院福祉施設調査	90
1	調査内容と回答者の属性	90
2	調査結果	91

[資料編]

1	調査票	101
2	調査の用語説明	119
3	参考資料一覧	120

第1部 調査概要と集計結果の主な特徴

I 調査の目的

平成21年度に実施した福井県地産地消率状況調査(以下「第1回調査」という。)は、全県的に地産地消率を表した全国でも初めての取組みである。また、調査結果から、福井県では、家庭における自家菜園や知人からの「おすそ分け」といった自給的活動が盛んである一方、市場や飲食店等において県産農林水産物の取扱いを更に増やしていくことが求められるといった本県の地産地消の特徴が明らかとなった。

そこで、本県の地産地消の現状および前回調査から推移を把握するため、福井県地産地消率検討委員会からの提言に基づき、平成23年度に第2回調査を実施した。

II 調査の概要

調査は、消費世帯調査、県内農林水産物の生産量調査、流通・加工調査、飲食店・病院福祉施設調査の4調査を実施した。

消費世帯調査

第1回調査において、国民生活基礎調査(国勢調査)の単位区の中から抽出された県内28調査区の調査協力世帯(約1,400世帯)を調査対象とした。同時に「農業(家庭菜園含む)・食生活に関するアンケート」を行った。

生産量調査

福井農林水産統計年報(福井農林統計協会)など、国、地方自治体、農業協同組合、各種統計機関、市場などで公表されている資料をもとに過去3年間の数値を調査した。

流通・加工調査

福井県経済農業協同組合連合会、福井県内に所在する青果市場、水産市場(産地・消費)、主要漁港市場(越前、敦賀、小浜)に参加する仲買人(3市場)、コンビニエンスストア地区本部、常設の農産物直売所、第1回調査で回答した小売業者、食料品製造業者、酒類製造業者等に対し、過去1年間(平成22年)の農林水産物の仕入量および産地の別、出荷量および出荷先の別などについて訪問および郵送の調査を行った。

飲食店・病院福祉施設調査

第1回調査で回答した一般飲食店、旅館・ホテル、病院、老人福祉・介護施設等に対し、それぞれ1週間分の農林水産物の仕入れ量と産地別の調査を郵送形式で行った。

Ⅲ 地産地消率と調査結果の特徴(第1回調査との比較)

本県の農林水産物の生産、流通、消費の各段階で、地産地消の現状を正しく認識するため、地産地消の姿を定量的に表す「地産地消率」を次のとおり算定した。

地産地消率は、第1回調査同様、「消費」「生産」「流通」の3つの面で表す。

地産地消の「地元」を表すエリアは「福井県内」とし、品目については、米、麦、大豆、そばの他、本県で主に生産されている野菜類、果実類、林産物、畜産物、水産物の計60品目を個別に集計し、それ以外の品目についてはすべて「その他」とした。

1 消費・地産地消率

「消費している食材のうち、どれくらい県内産が含まれているか」を重量ベースで表す。

県内産消費量／総消費仕向量

県内28地区の世帯を対象とした訪問調査に加え、外食や総菜についても、国民健康栄養調査(厚生労働省)の食品番号表および食品成分表等を参照して原材料ベースに換算した上で、流通・加工調査による市場等の産地別割合により推計した。また、休日平日では食事パターンが異なると考えられることから、平日休日の計2日間の合計で算出した。

1)算定結果

地産地消率は、第1回に比べて 2.1ポイント増加

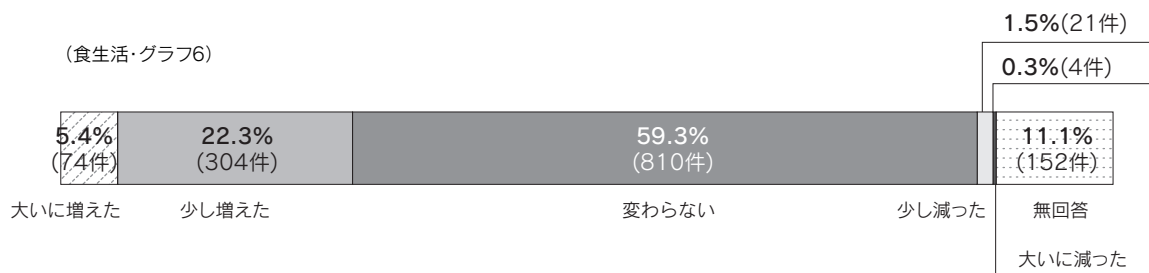
	第1回(10・12月の平均)	第2回(11月)
全体	58.3%	60.4%
家庭食(調理)	61.4%	63.2%
うち外食・総菜	36.6%	31.4%

2) 主な要因や背景

① 購入

第1回調査時に比べ、県内産を選択する世帯が増加

今回の「食生活・地産地消に関するアンケート」において、2年前（第1回調査時）に比べ「県産農林水産物を食べる量が増えた」と回答した世帯が27.7%と全体の4分の1以上に達している一方で、「少し減った」「大いに減った」と回答した世帯が1.8%とほとんどないことから、県産農林水産物を選択する世帯は確実に増加していると考えられる。



② 自給

第1回調査時に比べ、自家菜園(家庭菜園)の生産量が増加し、生産物の行き先として、自家消費+おすそ分けの割合が増加

「農業(家庭菜園を含む)に関するアンケート」において、実際に自家消費目的の耕作の土地利用を調査した結果、実面積の2倍の利用を行っていることが明らかとなった。

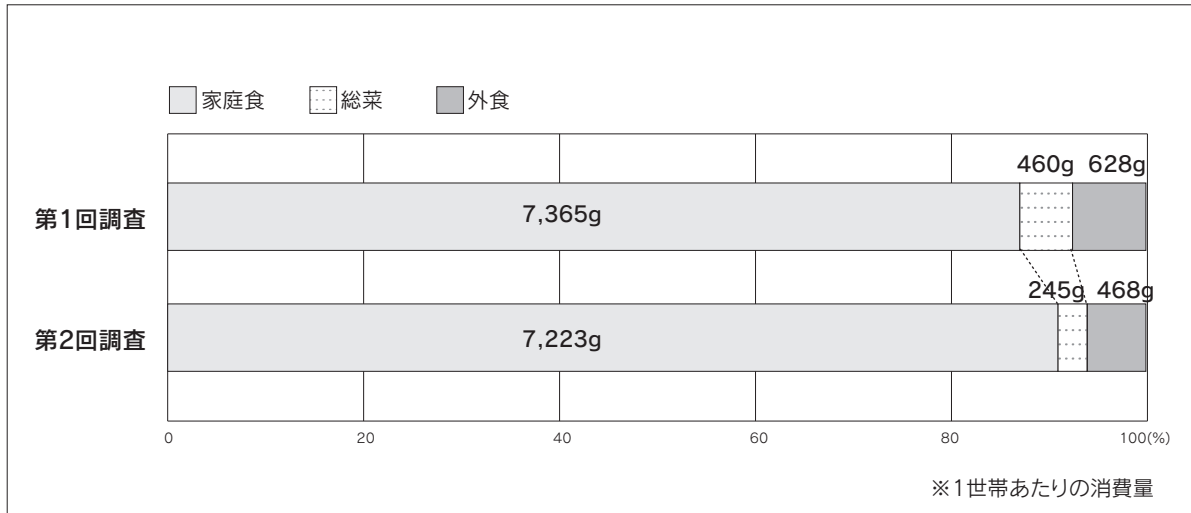
また、2年前(第1回調査)に比べ、1世帯あたりの農林水産物の年間生産量が77kg増加。また、出荷先として、「自家消費+おすそ分け」の割合が12.9%増加しており、前回から見られた福井県の特徴である「自家菜園等で生産したものを、自分または知人で食する」「自産自消」が更に進展していることが、地産地消率の増加につながっていると考えられる。

	第1回	第2回
世帯あたり年間生産量	695kg	772kg
生産物の行き先のうち「自家消費」+「おすそ分け」	33.7%	46.6%

③食事スタイル

外食や総菜の割合が減少し、家庭食の割合が増加

外食や総菜の割合が減り、食材を買って家で調理をする(家庭食)という食事スタイルが広がっていることが伺える。リーマンショック以来の不況や東日本大震災、昨年来の食中毒事件等がこうした傾向に影響していると思われる。



④男性や若者の変化

これまで比較的地産地消への取組みが少なかった男性や核家族世帯において、県内産の使用割合が増加

第1回調査時に比べ、県内産品の使用割合が「男性」で7.4ポイント増加し、「核家族世帯」で3.3ポイント増加するなど、これまで女性や夫婦のみの世帯に比べて地産地消の取組みが少なかった世帯の地産地消に対する意識が高まっている。

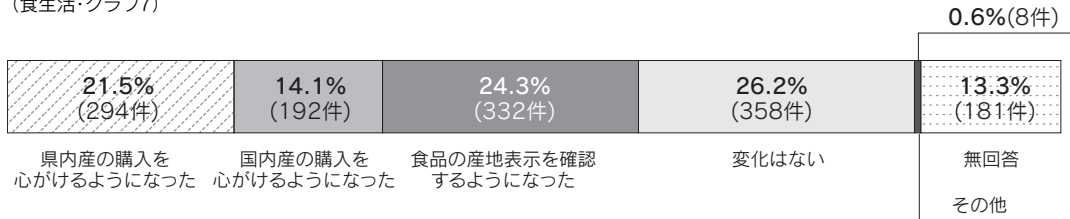
	第1回(10・12月)	第2回(11月)
男性が買い物をする世帯	58.8%	66.2%
核家族世帯	55.5%	58.8%

⑤産地に対する意識の変化

「産地を確認して購入」する世帯が増加

第1回調査時(2年前)に比べ、「県内産を選択」「国内産を選択」「産地表示を確認」する世帯を合わせると、全体の6割以上の世帯が産地を確認して購入ようになっており、地産地消の第一歩である「産地確認」の意識が高まっている。

(食生活・グラフ7)



3 流通・地産地消率

「消費される県内産品のうち、どれくらい購入(市場経済)で得ているか。また、どれくらい自産自消(家庭菜園・おすそ分け=非市場経済)で得ているか」を表す。

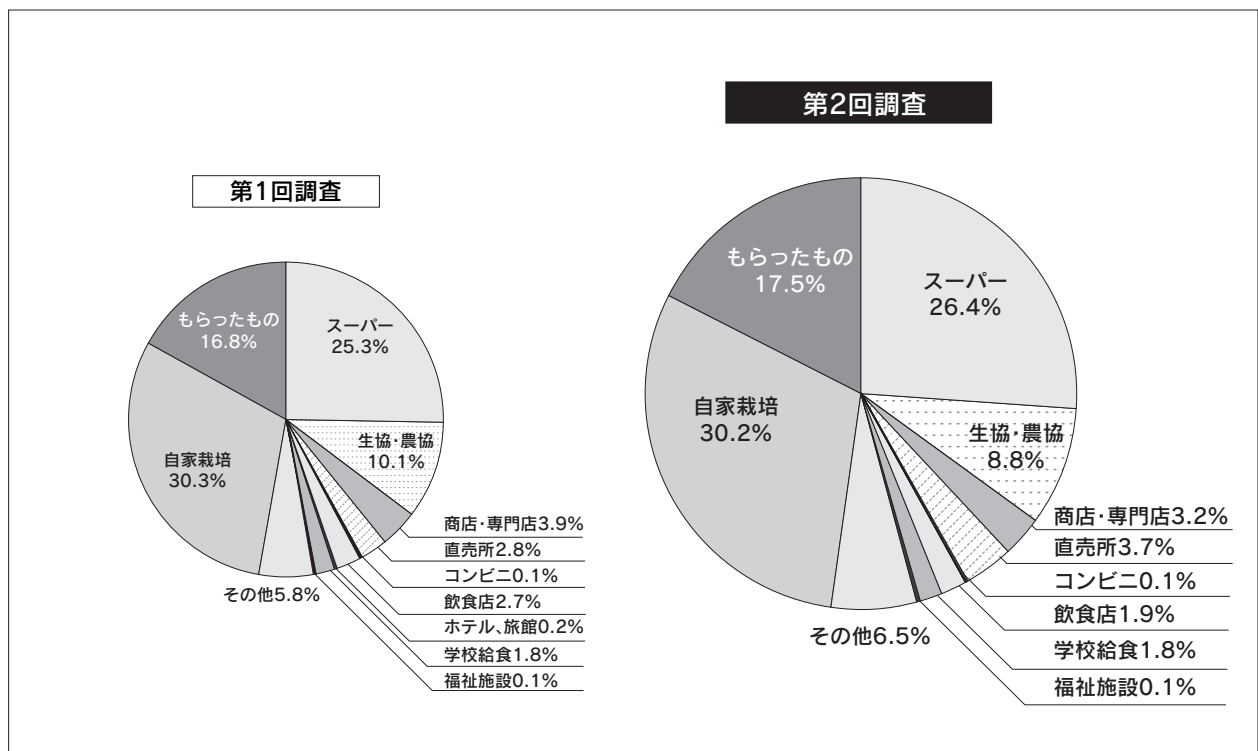
県内産の入手先が市場経済(購入)／全県内産消費量

県内28地区の世帯を対象とした訪問調査で、食品の入手先を記入してもらった。摂取した外食や総菜についても、流通・加工調査に基づいて、入手先ごとに原材料と産地を推計した。

1)算定結果

第1回同時期に比べて 0.5ポイント減少し、自産自消が前回よりも進展している

	第1回(10・12月)	第2回(11月)
流通・地産地消率 (購入で県内産を得る割合)	52.9%	52.4%
(自産自消で県内産を得る割合)	47.1%	47.6%



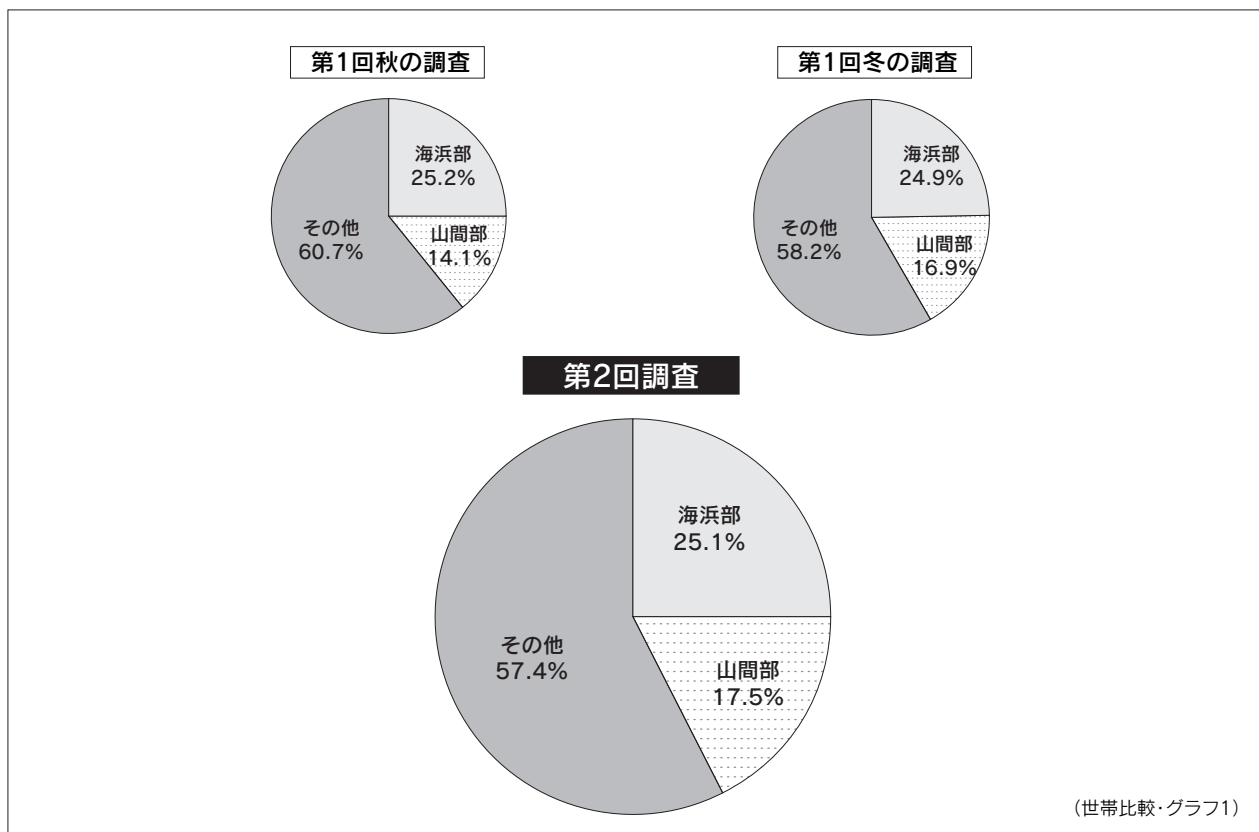
4 消費世帯調査(主な特徴)

今回調査は11月に1回のみ実施したのに対し、第1回は、8月(夏)、10月(秋)、12月(冬)の3回実施した。秋冬の重量野菜の出荷時期が10～12月にまたがること、又、それぞれの調査回によって回答世帯数が異なることから、第1回との比較は、「第1回の秋と冬の世帯平均」と「第2回の世帯平均」との間で行なった。

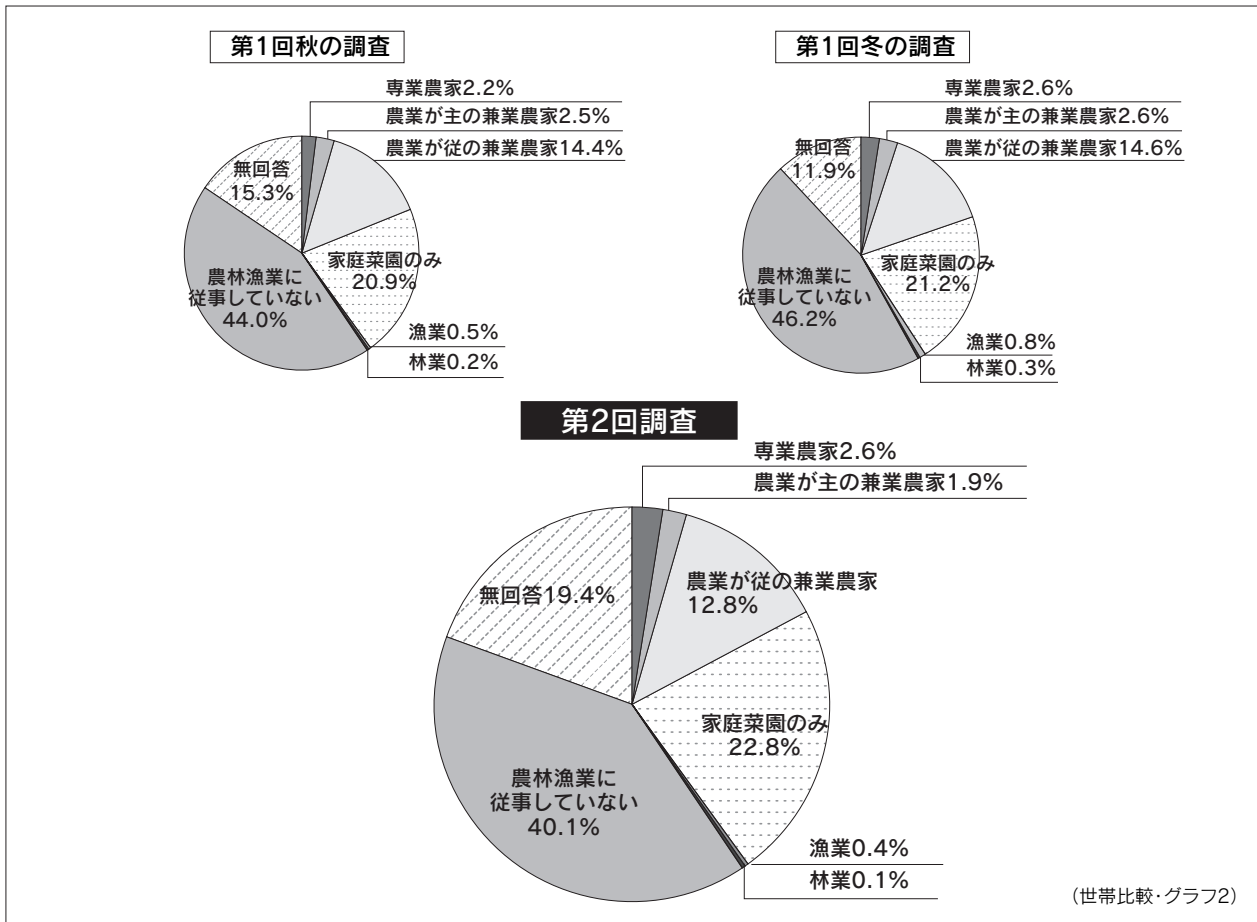
1)世帯情報の比較

調査世帯の構成について、地勢区分、農林漁業従事の有無、世帯形態とも、ほとんど変化はみられなかった。

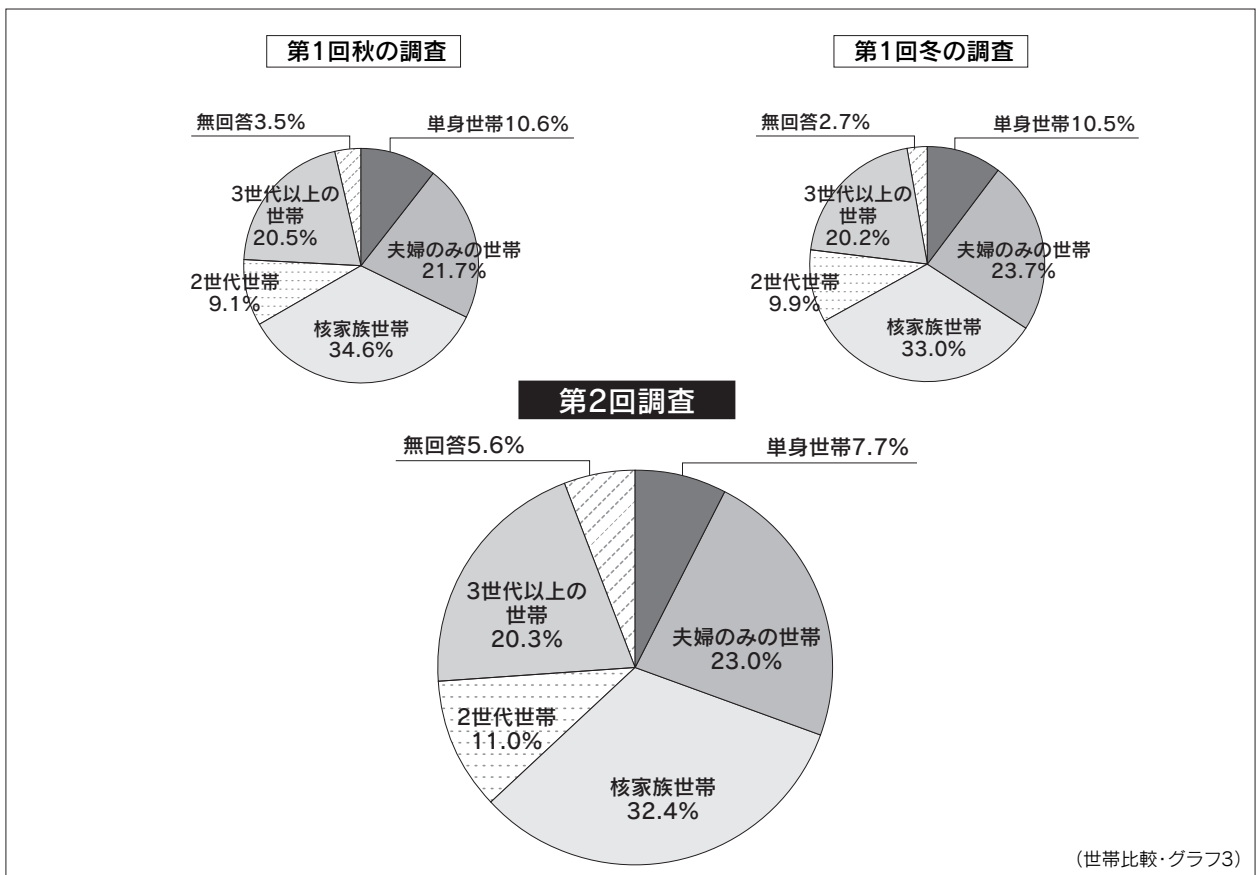
1.地勢区分



2. 農林漁業従事の有無



3. 世帯形態

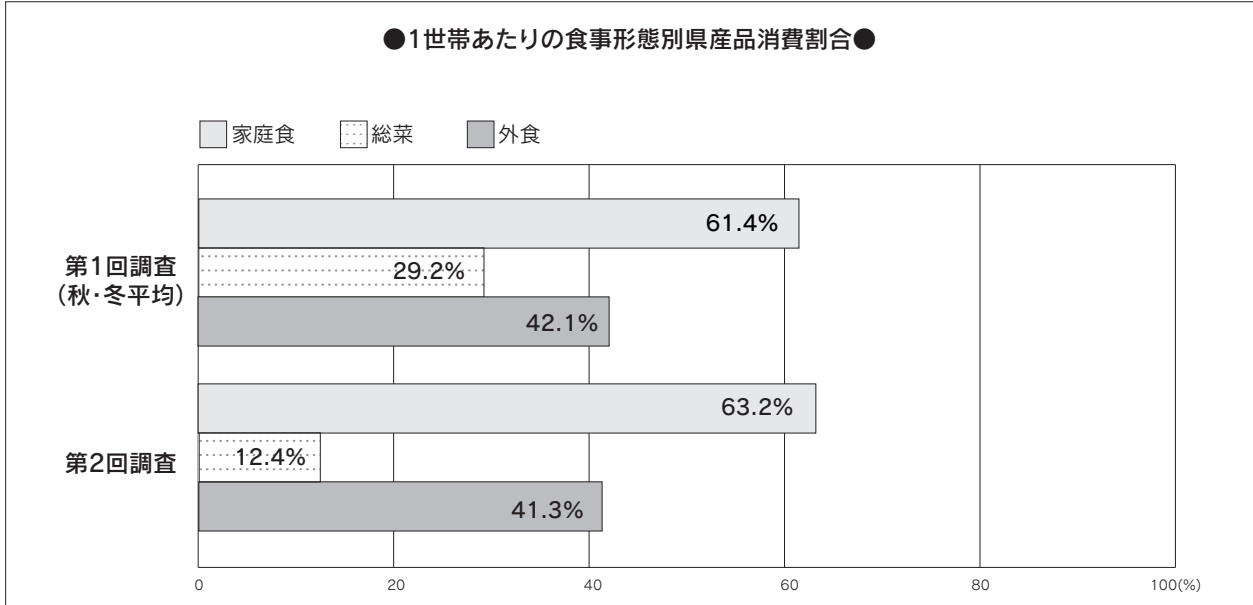


2)家庭食・総菜・外食における県内産品の量を比較

①県内産品の割合

1世帯あたりの県内産品消費割合は、「家庭食」で増え、「総菜」、「外食」は減っている。

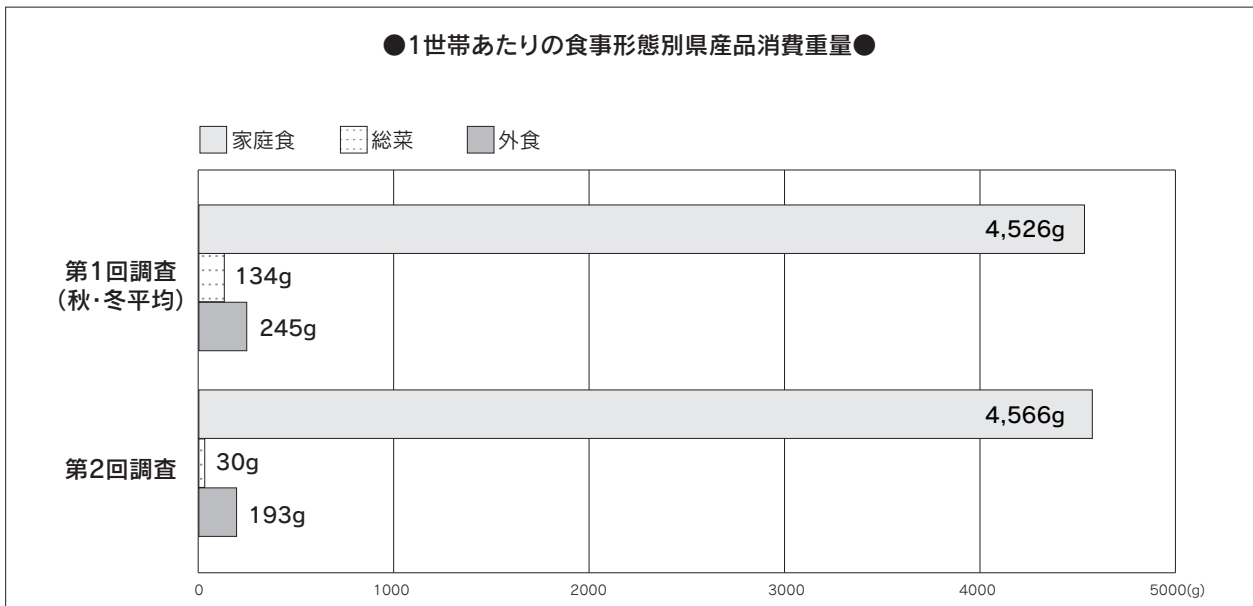
(世帯比較・グラフ4)



②県内産品の重量

1世帯あたりの県内産品消費重量は、「家庭食」で微増、「総菜」、「外食」で減っている。

(世帯比較・グラフ5)



第2回 福井県地産地消率状況調査結果

●60品目で見る1世帯あたりの県内産品の消費割合(家庭食のみ)

(世帯比較・表1)

ジャンル	No	品目	第1回調査(秋・冬平均)			第2回調査			増減			
			県内		合計	県内		合計	県内		合計	
			重量(g)	(%)	(g)	重量(g)	(%)	(g)	重量(g)	(ポイント増減)	(g)	
穀物	1	米	1,148	96.9%	1,184	1,086	93.4%	1,163	-62	-3.6	-21	
	2	麦	0	25.9%	0	1	0.5%	146	1	-25.4	145	
	3	大豆	7	69.1%	11	45	30.6%	148	38	-38.5	138	
	4	そば	0	81.6%	0	8	61.2%	13	8	-20.5	13	
野菜	5	だいこん	522	89.5%	583	550	86.8%	634	29	-2.7	51	
	6	にんじん	112	63.5%	177	104	57.7%	180	-8	-5.8	3	
	7	はくさい	297	88.6%	335	203	84.1%	242	-93	-4.5	-93	
	8	キャベツ	110	61.8%	178	168	71.8%	234	58	10.0	57	
	9	ほうれんそう	73	84.1%	87	122	87.1%	141	49	2.9	54	
	10	ねぎ	82	89.1%	92	81	88.3%	92	-1	-0.8	-0	
	11	なす	30	84.4%	35	26	84.2%	30	-4	-0.2	-5	
	12	トマト	70	62.1%	113	70	58.1%	121	0	-4.0	8	
	13	きゅうり	55	61.6%	89	57	63.2%	90	2	1.6	1	
	14	ピーマン	17	80.6%	21	26	85.2%	31	10	4.5	10	
	15	ばれいしょ	233	77.7%	299	237	75.2%	315	4	-2.5	16	
	16	さといも	97	95.7%	102	121	95.2%	127	23	-0.5	25	
	17	たまねぎ	171	75.0%	228	167	70.4%	237	-4	-4.6	9	
	18	すいか	6	78.8%	7	0	0.0%	0	-6	-78.8	-7	
	19	メロン	1	45.0%	2	1	27.9%	2	0	-17.1	0	
	20	らっきょう	1	88.9%	1	3	89.5%	3	2	0.6	2	
	21	かぶ	28	95.5%	29	27	95.4%	29	0	0.0	-0	
	22	ごぼう	16	40.9%	40	17	37.7%	45	1	-3.2	5	
	23	ブロッコリー	17	63.3%	27	25	63.7%	40	8	0.5	12	
	24	レタス	25	42.2%	60	49	52.8%	93	24	10.7	33	
	25	かぼちゃ	41	70.4%	58	54	76.1%	71	14	5.8	13	
	26	スイートコーン	1	15.4%	5	1	13.9%	6	0	-1.5	1	
	27	さやいんげん	3	72.8%	5	5	73.4%	6	1	0.6	2	
	28	さやえんどう	0	68.2%	0	0	52.5%	1	0	-15.7	0	
	29	えだまめ	0	3.8%	7	0	21.8%	1	0	18.0	-6	
	果物	30	梅	0	84.5%	0	6	93.8%	7	6	9.3	6
		31	柿	82	73.3%	112	255	88.1%	289	173	14.8	177
		32	梨	16	59.4%	28	9	49.8%	18	-7	-9.6	-9
		33	みかん	26	21.3%	121	16	19.2%	84	-10	-2.1	-36
34		ぶどう	0	5.7%	7	0	7.8%	3	0	2.1	-4	
35		もも	0	2.3%	1	0	0.0%	0	0	-2.3	-0	
36		くり	1	47.5%	2	1	91.8%	1	0	44.3	-2	
37		キウイ	6	56.7%	10	4	53.9%	7	-2	-2.7	-4	
畜産物	38	牛肉	21	21.3%	100	21	21.1%	98	-1	-0.2	-2	
	39	豚肉	26	17.9%	144	28	12.5%	223	2	-5.4	78	
	40	鶏肉	19	17.8%	105	27	27.2%	98	8	9.4	-7	
	41	牛乳	55	25.6%	216	266	63.5%	420	211	37.9	204	
	42	鶏卵	167	81.9%	204	178	81.6%	218	10	-0.3	13	
林産物	43	しいたけ	12	59.1%	21	11	62.8%	18	-1	3.7	-3	
	44	なめこ	3	45.7%	8	5	57.4%	9	2	11.7	1	
	45	ひらたけ	6	21.1%	27	5	27.5%	19	0	6.4	-8	
	46	えのき	16	45.3%	36	11	35.2%	31	-5	-10.1	-5	
水産物	47	あじ類	17	69.8%	24	13	67.2%	20	-4	-2.7	-5	
	48	ぶり類	10	33.9%	31	7	22.3%	31	-4	-11.5	0	
	49	かれい類	24	74.3%	33	32	83.8%	38	8	9.5	6	
	50	さわら類	1	44.7%	3	3	39.1%	7	1	-5.6	3	
	51	さば類	21	40.1%	53	22	38.9%	56	1	-1.2	3	
	52	するめいか	1	50.8%	1	0	0.0%	0	-1	-50.8	-1	
	53	いか類	16	50.4%	32	37	56.0%	65	21	5.6	34	
	54	えび類	8	27.7%	29	2	25.2%	9	-6	-2.5	-20	
	55	とびうお	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0	0	
	56	貝	4	18.3%	21	2	10.3%	18	-2	-8.0	-3	
	57	はたはた	2	52.1%	3	2	54.1%	4	1	2.0	1	
	58	たい類	6	71.3%	8	10	91.9%	10	4	20.6	2	
	59	ずわいがかに	3	58.8%	5	30	77.3%	38	27	18.5	33	
	60	ふく類	1	59.5%	1	0	100.0%	0	0	40.5	-0	
その他	61	その他	792	35.9%	2,205	309	27.1%	1,143	-482	-8.8	-1,063	
		合計	4,526	61.4%	7,365	4,566	63.2%	7,223	40	1.8	-143	

※重量は、平日、休日の2日間合計

3)食材入手先別産地割合を比較

1世帯あたりの県内産品消費割合が第1回調査よりも高い割合となっているのは、コンビニ、学校給食などであり、低くなっているのは、ホテル、旅館である。

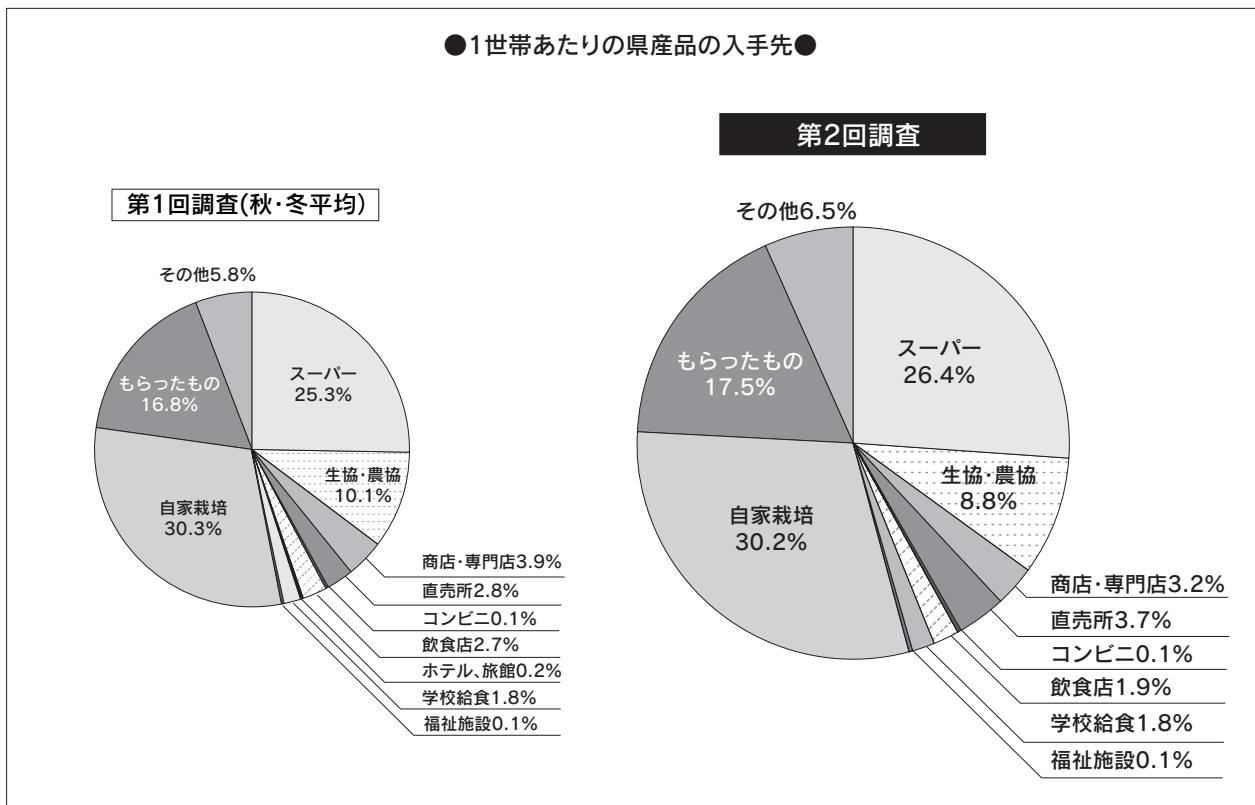
食材の入手先は、スーパー、直売所、自家菜園、もらったもので伸びているが、第1回との目立った差は見られない。

●1世帯あたりの食材入手先別県産品消費割合●

(世帯比較・表2)

入手先別	第1回調査(秋・冬平均)				第2回調査				増減			
	県内		合計	入手先別の構成比	県内		合計	入手先別の構成比	県内		合計	入手先別の構成比ポイント増減
	g	%	g		g	%	g		g	ポイント増減		
スーパー	1,247	38.1%	3,271	38.7%	1,263	40.8%	3,100	39.1%	16	2.6	(171)	0.4
生協・農協	500	43.4%	1,150	13.6%	421	43.3%	972	12.3%	(79)	(0.2)	(178)	(1.4)
商店・専門店	194	48.7%	398	4.7%	153	47.9%	320	4.0%	(41)	(0.8)	(78)	(0.7)
直売所	139	82.1%	169	2.0%	177	84.4%	210	2.6%	38	2.2	41	0.6
コンビニ	4	3.5%	109	1.3%	5	8.8%	61	0.8%	2	5.3	(47)	(0.5)
飲食店	133	42.3%	314	3.7%	91	40.5%	224	2.8%	(42)	(1.8)	(90)	(0.9)
ホテル、旅館	8	73.2%	11	0.1%	1	49.7%	2	0.0%	(7)	(23.5)	(9)	(0.1)
学校給食	91	53.8%	169	2.0%	85	58.0%	146	1.8%	(6)	4.1	(23)	(0.2)
福祉施設	5	49.8%	10	0.1%	3	42.5%	8	0.1%	(2)	(7.3)	(2)	(0.0)
自家栽培	1,491	99.3%	1,501	17.8%	1,445	96.5%	1,496	18.9%	(46)	(2.8)	(4)	1.1
もらったもの	827	81.7%	1,012	12.0%	836	83.9%	997	12.6%	10	2.2	(15)	0.6
その他	287	84.4%	340	4.0%	309	77.6%	398	5.0%	22	(6.8)	59	1.0
計	4,925	58.3%	8,454	100.0%	4,790	60.4%	7,935	100.0%	(135)	2.1	(519)	0.0

(世帯比較・グラフ5)

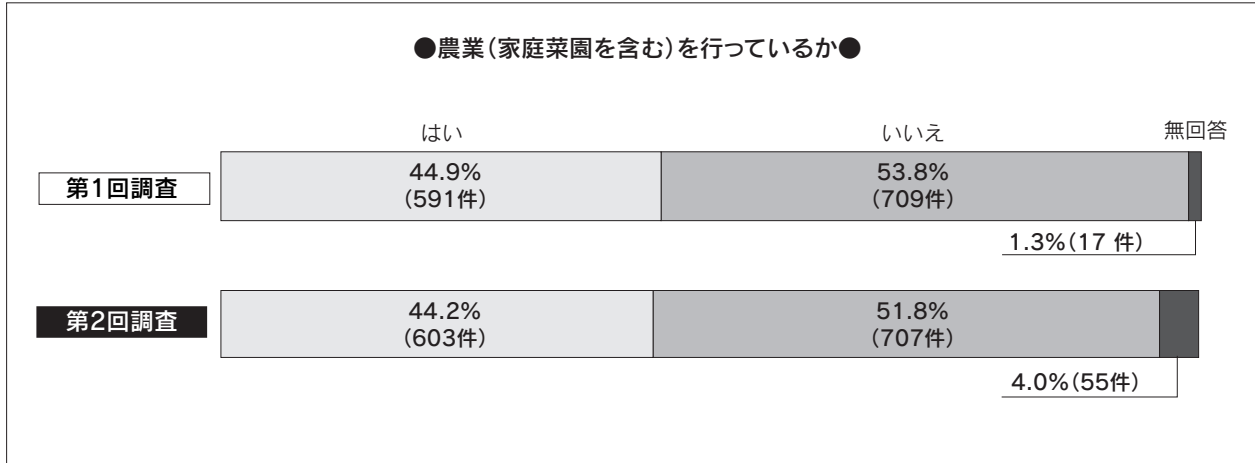


5 農業(家庭菜園を含む)アンケート(主な特徴)

①農業(家庭菜園を含む)を行っているか

農業(家庭菜園を含む)を行っている家庭は44.2%で、第1回調査の44.9%とほぼ同じである。

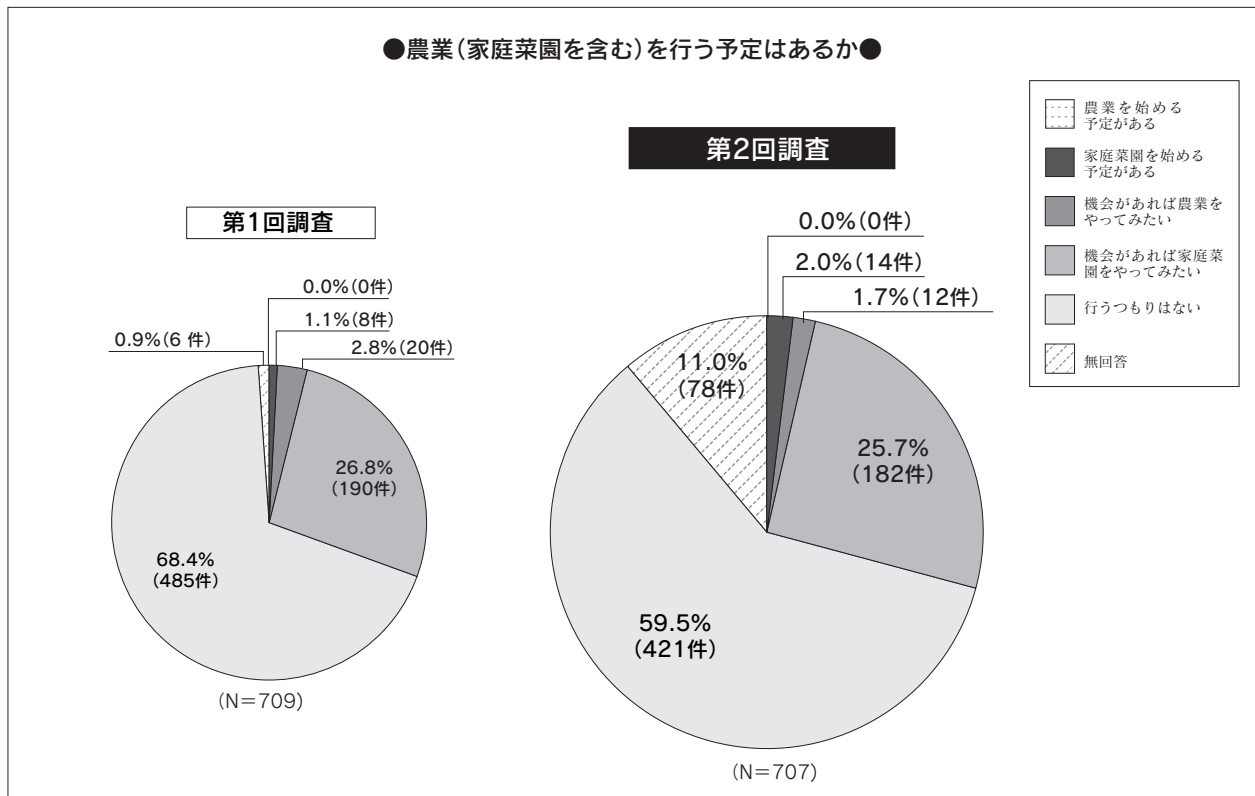
(農業比較・グラフ1)



②今後、農業(家庭菜園を含む)を行う予定はあるか

今後、農業(家庭菜園を含む)を行う予定があるかについて、「家庭菜園を始める予定がある」、「機会があれば家庭菜園をやってみたい」を合わせた割合は、前回調査とほぼ同じである。

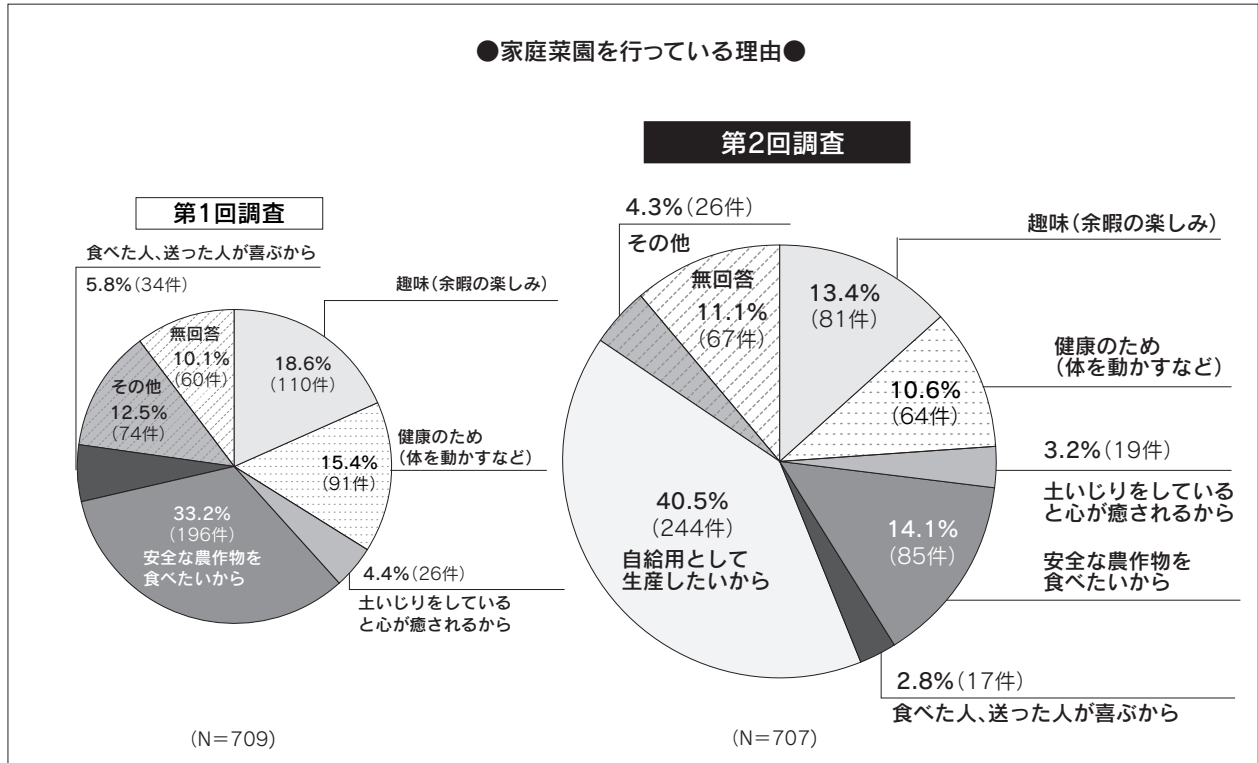
(農業比較・グラフ2)



③家庭菜園を行っている理由

家庭菜園を行っている理由は、第1回設問になかった「自給用として生産したいから」が40.5%と最も高くなっている。

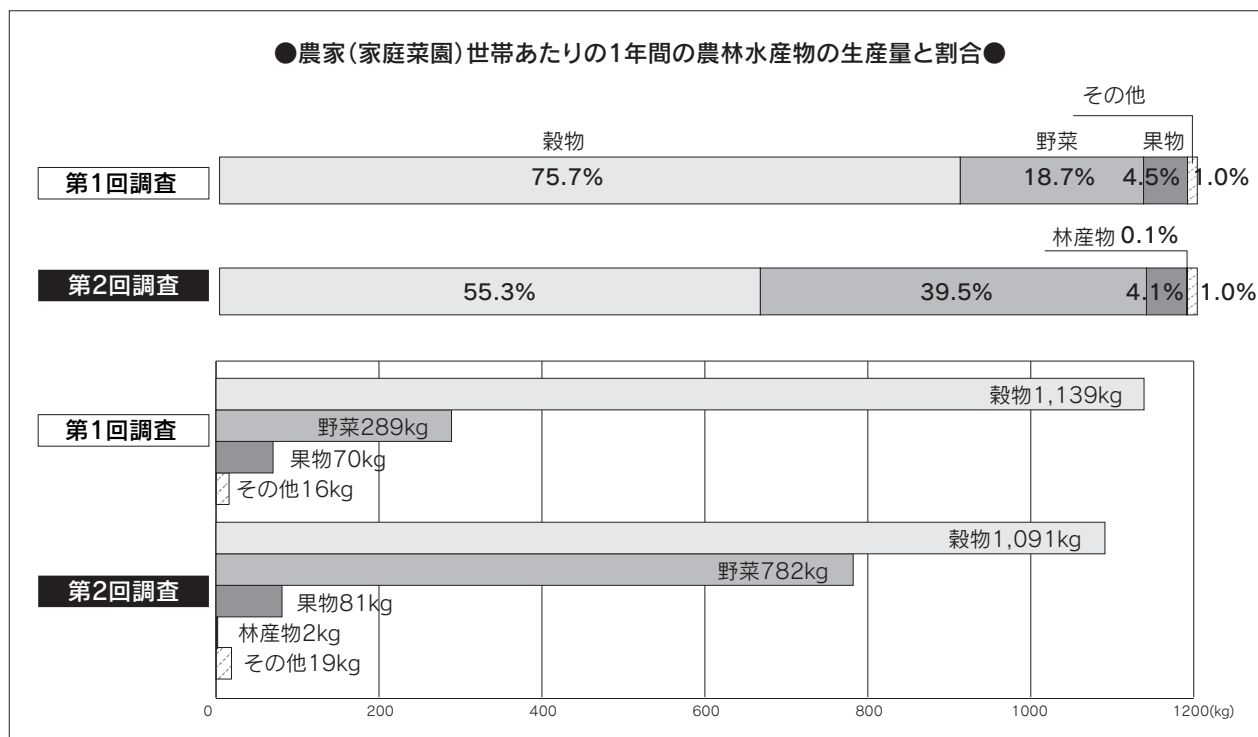
(農業比較・グラフ3)



④1年間の農林水産物(家庭菜園を含む)の生産量

1年間の農林水産物(家庭菜園を含む)は、第1回調査と比べて穀物の生産割合が減り、野菜の生産割合が増えている。

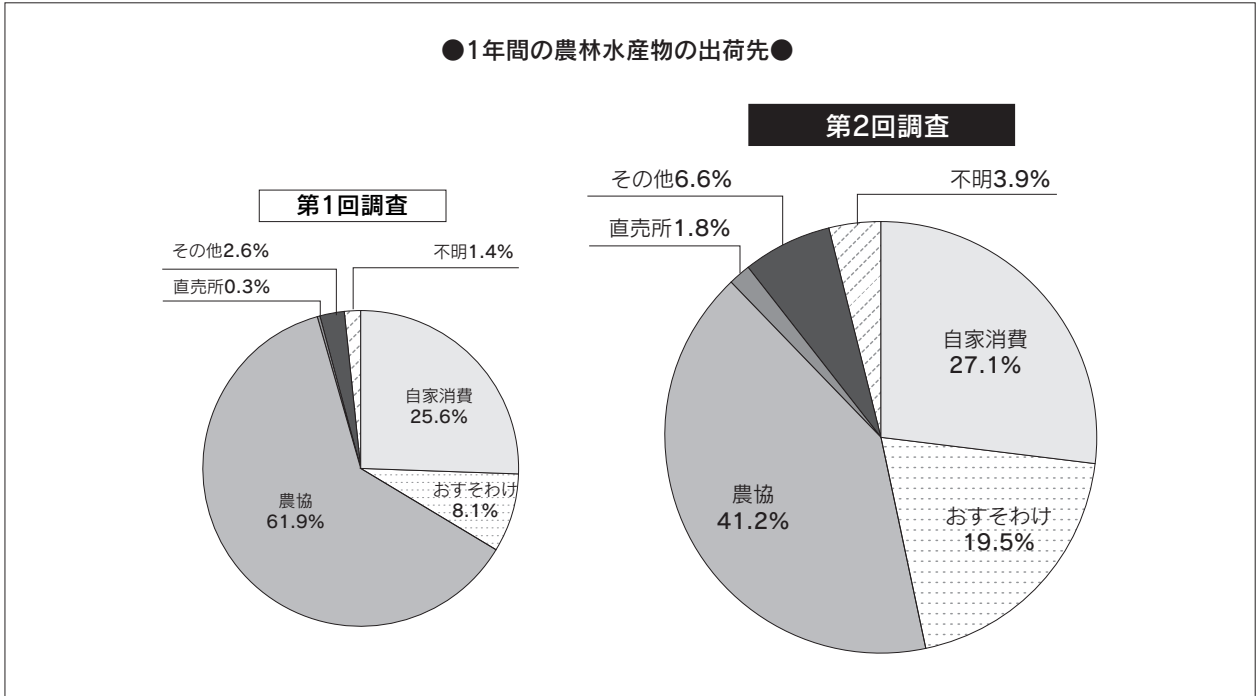
(農業比較・グラフ4)



⑤ 1年間の農林水産物の出荷先(全世帯)

第1回調査に比べて、自家消費、おすそわけの割合が増えている。直売所もわずかながら増えている。

(農業比較・グラフ5)

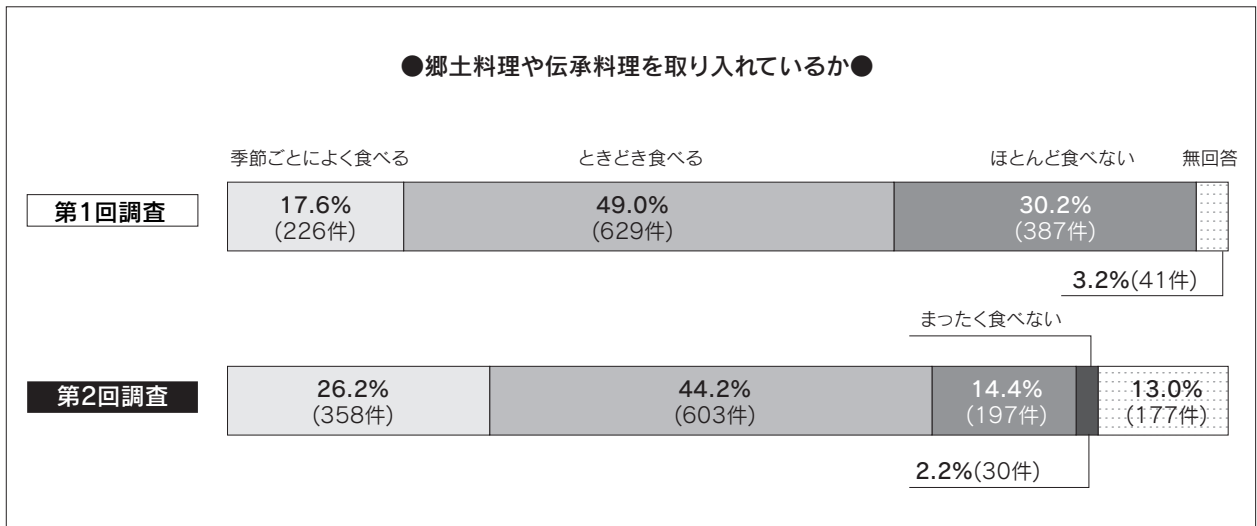


6 食生活・地産地消に関するアンケート(主な特徴)

① あなたの家庭では、地域の農産物を使った郷土料理や伝承料理を食事に取り入れているか

第1回調査と比べて「季節毎によく食べる」が高い割合となっている。

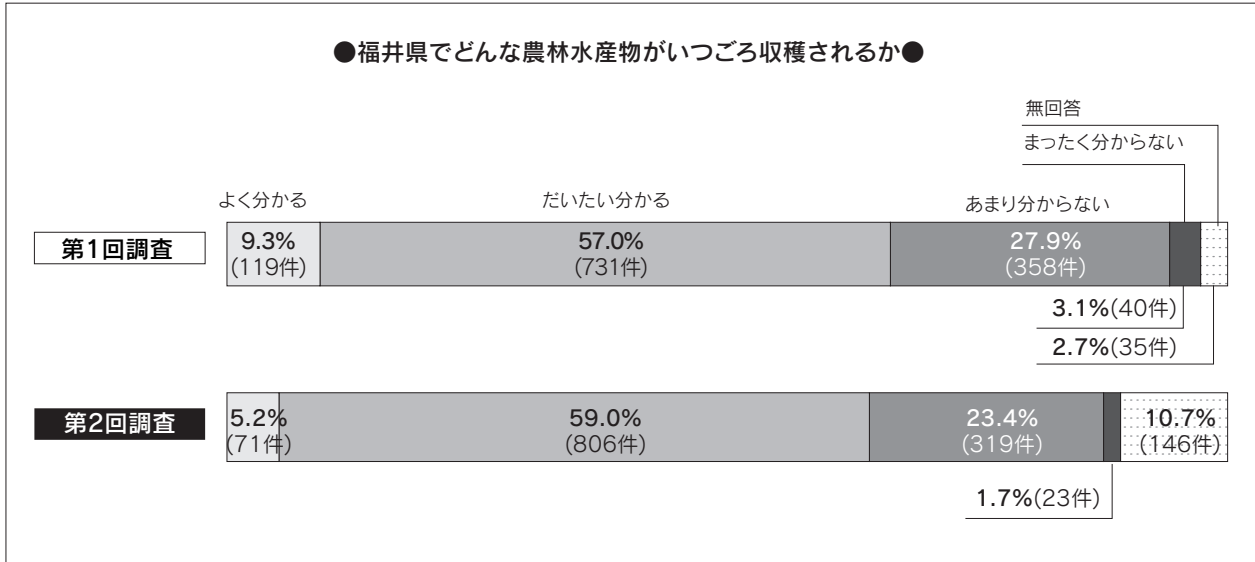
(食生活比較・グラフ1)



②福井県でどんな農林水産物がいつごろ収穫されるかが分かるか

「よく分かる」、「だいたい分かる」を合わせた収穫時期が分かる割合は第1回調査とほぼ変わらない。

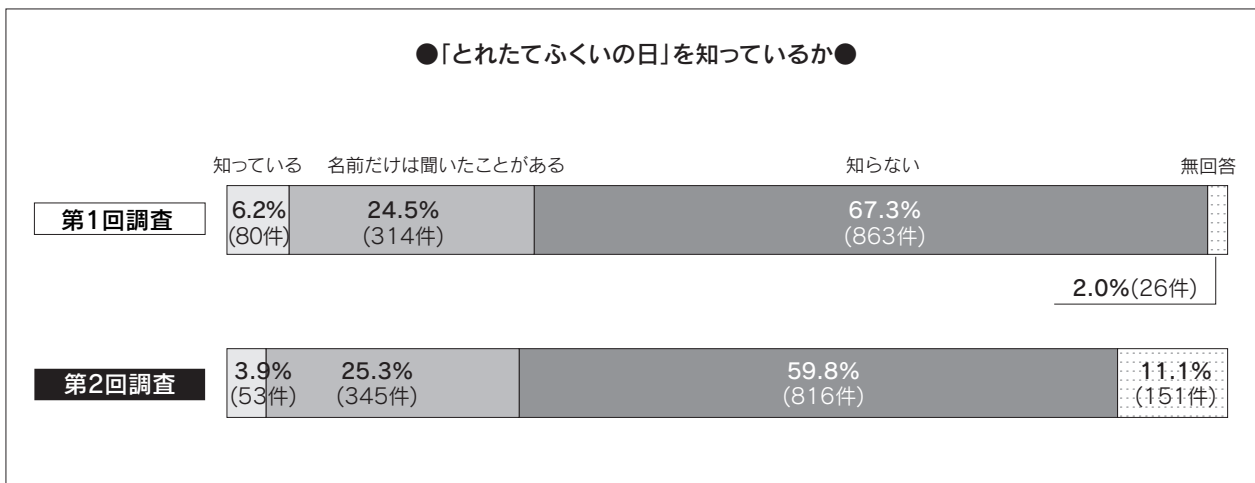
(食生活比較・グラフ2)



③「とれたてふくいの日」を知っているか

「知っている」、「名前だけは聞いたことがある」を合わせた割合は、第1回調査とほぼ変わらない。

(食生活比較・グラフ3)



※とれたてふくいの日

福井県では、「ふくい産でふくいを食べよう」という地産地消を進める県民運動として、毎週日曜日を「とれたてふくいの日」としています。

7 生産量調査(主な特徴)

●農林水産物の生産量と栽培面積

特に増加した品目は、そば、ねぎ、牛乳、鶏卵、ぶり類、かれい類である。

(生産比較・表1)

ジャンル	No	品目	平成20年		平成22年(今回)		増減				集計の前提条件				
			生産量	単位	栽培面積	単位	生産量	単位	栽培面積	単位		生産量	単位	栽培面積	単位
穀物	1	米	141,800	t	26,800	ha	138,800	t	26,800	ha	-3,000	t	0	ha	
	2	麦	16,300	t	4,650	ha	13,700	t	4,850	ha	-2,600	t	200	ha	種類-六条大麦
	3	大豆	2,070	t	1,400	ha	1,520	t	1,430	ha	-550	t	30	ha	
	4	そば	1,420	t	2,710	ha	1,730	t	3,260	ha	310	t	550	ha	
野菜	5	だいこん	7,560	t	305	ha	6,710	t	294	ha	-850	t	-11	ha	春+秋+冬
	6	にんじん	416	t	25	ha	430	t	25	ha	14	t	0	ha	冬のみ
	7	はくさい	1,450	t	77	ha	1,400	t	75	ha	-50	t	-2	ha	秋+冬
	8	キャベツ	1,830	t	81	ha	1,642	t	73	ha	-188	t	-8	ha	春+冬
	9	ほうれんそう	905	t	92	ha	889	t	94	ha	-16	t	2	ha	
	10	ねぎ	1,190	t	61	ha	1,530	t	76	ha	340	t	15	ha	秋+冬
	11	なす	1,440	t	122	ha	1,390	t	119	ha	-50	t	-3	ha	夏+秋
	12	トマト	1,780	t	85	ha	1,697	t	83	ha	-83	t	-2	ha	
	13	きゅうり	1,260	t	68	ha	1,217	t	68	ha	-43	t	0	ha	
	14	ピーマン	154	t	19	ha	129	t	18	ha	-25	t	-1	ha	夏+秋
	15	ばれいしょ	4,710	t	383	ha	4,110	t	351	ha	-600	t	-32	ha	
	16	さといも	3,410	t	277	ha	2,340	t	248	ha	-1,070	t	-29	ha	秋+冬
	17	たまねぎ	1,260	t	70	ha	1,310	t	69	ha	50	t	-1	ha	
	18	すいか	4,850	t	198	ha	3,820	t	193	ha	-1,030	t	-5	ha	
	19	メロン	1,060	t	64	ha	938	t	63	ha	-122	t	-1	ha	
	20	らっきょう									0				(参考H18)846t 127ha
	21	かぶ	912	H19	53	H19	918	t	53	ha	6	t	0	ha	
	22	ごぼう	123	H19	15	H19	113	t	13	ha	-10	t	-2	ha	
	23	ブロッコリー	349	H19	57	H19	319	t	53	ha	-30	t	-4	ha	
24	レタス	235	H19	-		135	t	11	ha	-100	t	-	ha		
25	かぼちゃ	601	t	67	ha	529	t	66	ha	-72	t	-1	ha		
26	スイートコーン	120	H19	37	H19	121	t	37	ha	1	t	0	ha		
27	さやいんげん	251	H19	52	H19	236	t	50	ha	-15	t	-2	ha		
28	さやえんどう	83	H19	17	H19	81	t	17	ha	-2	t	0	ha		
29	えだまめ	89	H19	43	H19	84	t	44	ha	-5	t	1	ha		
果物	30	梅	1,420	t	498	ha	1,100	t	499	ha	-320	t	1	ha	
	31	柿	864	t	140	ha	530	t	137	ha	-334	t	-3	ha	
	32	梨	1,500	t	71	ha	1,160	t	68	ha	-340	t	-3	ha	
	33	みかん	-		-		-		-		-		-		(参考H16)93t 27ha
	34	ぶどう	-		-		-		-		-		-		(参考H16)51t 12ha
	35	もも	-		-		-		-		-		-		(参考H16)14t 5ha
	36	くり	-		-		-		-		-		-		(参考H16)65t 91ha
	37	キウイ	-		-		-		-		-		-		(参考H16)22t 5ha
畜産物	38	牛肉			2,377	頭			2,243	H21			-134	頭	肉畜種類別出荷頭数
	39	豚肉			8,777	頭			8,315	H21			-462	頭	肉畜種類別出荷頭数
	40	鶏肉	1,054	t			1,333	t			279	t			出荷量の生体重量
	41	牛乳	11,625	kl			17,382	kl			5,757	kl			飲用牛乳等の生産量
42	鶏卵	7,677	t			8,828	t			1,151	t			出荷量	
林産物	43	しいたけ	323	t			330	t			7	t			
	44	なめこ	91	t			36	t			-55	t			
	45	ひらたけ	72	t			26	t			-46	t			
	46	えのき	373	t			365	t			-8	t			
水産物	47	あじ類	1,395	t			1,182	t			-213	t			(漁獲量)まあじ・むろあじを含む
	48	ぶり類	2,771	t			2,852	t			81	t			(漁獲量)
	49	かれい類	1,770	t			1,855	t			85	t			(漁獲量)あかかれい・そうはち・ひれぐる・まがれい等を含む
	50	さわら類	1,959	t			1,650	t			-309	t			(漁獲量)
	51	さば類	198	t			209	t			11	t			(漁獲量)
	52	するめいか	2,492	t			1,927	t			-565	t			(漁獲量)するめいか・こういか・あおいか・ほたるいか・やいりかを含む
	53	いか類	3,060	t			3,000	t			-60	t			(漁獲量)するめいか・こういか・あおいか・ほたるいか・やいりかを含む
	54	えび類	445	t			459	t			14	t			(漁獲量)いせ・くるま・ほっこくあかえびを含む
	55	とびうお	-	t			-	t			-	t			(参考H18)441t
	56	貝	416	t			412	t			-4	t			(漁獲量)あわび・サザエ・はまぐり・あさり・ほたて・うばがいを含む
	57	はたはた	593	t			142	t			-451	t			(漁獲量)
	58	たい類	363	t			368	t			5	t			(漁獲量)
	59	ずわいがに	523	t			516	t			-7	t			(漁獲量)
	60	ふぐ類	67	t			47	t			-20	t			(漁獲量)

8 流通・加工調査、飲食店・病院福祉施設調査(主な特徴)

各業態における県内産品の取扱い(仕入れ)割合は、以下のとおりとなった。

業種名	第1回	第2回(今回)
青果市場	15.8%	14.1%
水産市場(消費)	30.8%	28.5%
水産市場(仲買人)	73.7%	74.9%
コンビニエンスストア(推計値)	5.6%	7.1%
量販店等	24.0%	19.3%
常設農産物直売所	88.5%	87.9%
商店、専門店	33.5%	52.1%
食品製造業・清涼飲料製造業	49.2%	53.7%
酒類製造業	78.4%	79.6%
飲食店	44.8%	44.0%
旅館、ホテル	67.4%	55.3%
病院、福祉施設	31.0%	39.1%